



第2回

おおさか
優良

緑化賞



受賞事例集

■表彰の目的■

大阪府自然環境保全条例等に基づいて緑化がなされたもののうち、府内の都市環境の改善に特に貢献する緑化や建築物敷地内の魅力向上に資する緑化、新たな緑化手法のモデルとなる等の優れた取り組みを顕彰することで、民間施設等において、より質の高い緑化を普及・推進することを目的としています。

■選考対象■

1,000㎡以上の敷地を有する施設で、大阪府自然環境保全条例第33条で緑化の義務が課せられたもの、若しくは同条項の適用除外となる市域において緑化の義務が課せられたもののうち、表彰前年度中に完了したものを。

■ 総 評 ■

審査委員長 増田 昇

本賞の2年目をむかえた平成20年は、大幅に応募件数が増え27施設ものの応募があった。集合住宅が12件と最も多く、次いで福祉施設が6件と続き、その他は公共施設や工場施設など多様な施設であった。本年度は応募件数が多かったことから、緑量、公開性、緑化技術・管理といった比較的客観視できる指標から第1次審査を行い、16施設を第2次審査の対象とした。第2次審査は前述の3指標に加え詳細な事務局による現地調査からのコメントと写真を参考に5人の審査員で厳正な審査を進めた。

本年度は、1年目の昨年度と比較して全般的に緑化レベルが高いといった印象をもった。特に、物件が多かった集合住宅や福祉施設は緑化そのものが施設の価値を左右するのでは、といった感覚を持つほど優良な物件が多く、緑化への利用者ニーズの強さが窺われる。一方、両施設ともセキュリティ上から部外者が利用出来ないといった課題も見受けられた。

このような中から、知事賞として「ディーグラフォート千里中央」、「スイートガーデン豊中旭ヶ丘」という集合住宅2施設と「日野病院」を選び、奨励賞としては福祉施設3、集合住宅2、病院1、工場施設1の7施設を選出した。

緑化へのニーズの高まりを実感するとともに、緑化を通じたリハビリテーションや“誇りの獲得”など、まだまだ発展途上にある緑化の多面的効果に新たに気づかされるなど、本賞の効果がさらに広がることが期待される。

「おおさか優良緑化賞」選考委員 ※50音順

井上 純子	株式会社 産業経済新聞社 社会部次長
遠藤 尚美【副委員長】	有限会社 サステイナブル・e 取締役
増田 昇【委員長】	大阪府立大学大学院 生命環境科学研究科教授
間宮 吉彦	株式会社 インフィクス 代表取締役社長
山田 宏之	和歌山大学 システム工学部准教授



大阪府知事賞

ディーグラフォート千里中央

所在地：豊中市新千里西町

主用途：集合住宅

建築主：大和ハウス工業 株式会社

設計：(株)アール・アイ・エー

(株)白井隆庭園都市計画事務所

建築施工：(株)竹中工務店

造園施工：(株)菊水園

■ 講 評 ■

ディーグラフォート千里中央は、70年代の日本で、大阪が最も輝いていた時代に開発された千里中央に位置する。

そこは新しいライフスタイルと都市造形の象徴であり、培われた歴史を残しながら今もなお都市型郊外を代表する土地でもある。

今回の開発物件は大規模ではあるが、緑化面積の樹木比率が高く、樹木がコントラストを外観にあたえ、千里緑地の豊かな自然と調和した美しい景観を作り出している。

低層階の屋上緑化部は中層階からの緑視の景観となり、大規模開発ゆえにできる隣接する棟と棟の間のスペースにも緑化が施され、太陽光を自動追尾するシステムで採光をとるなど積極的な試みが評価された。

中でももっとも評価されたのは、苗木による植樹活動であり、行政とともに進められるコミュニケーションガーデンである。家庭が家と庭から成り立つように、住居において庭はコミュニティの役割を果たしている。

(選考委員 間宮 吉彦)



低層棟の屋上に設けられた緑化



太陽光採光システムにより照らされた高層棟間のすきま植栽



外周部の樹木は、シイやカシなど潜在的な自然の植生と周辺の里山に馴染みあるもの。一部は、住民らと協働で植栽された。



大阪府知事賞

スイートガーデン豊中旭ヶ丘

所在地：豊中市旭丘

主用途：集合住宅

建築主：総合地所 株式会社
東急不動産 株式会社
三交不動産 株式会社
株式会社 長谷工コーポレーション

設計：(株)長谷工コーポレーション
(大阪エンジニアリング事業部)

建築施工：(株)長谷工コーポレーション

造園施工：(株)長谷工コーポレーション

■ 講 評 ■

設置義務の倍以上の緑化面積を設け、樹木を中心とした豊かな緑化が施されている。既存樹木をシンボルツリーとしてエントランス部に保存するとともに接道部には草本層から高木層に渡る複層的な緑化が導入され、従前の緑景観の継承とともに隣地も含めた一体的な新たな緑景観が演出されている。

内部はセキュリティ上一般には供されていないもののベンチ等が配され、居住者の屋外生活を豊かなものになっている。特に、敷地中央の東西の通路は豊かな緑化によってグリーンモール化され、暑い夏の日には木陰の通路、寒い冬の日には木漏れ日溢れる通路として、四季折々の変化を楽しみながらこの通路を介して日常生活が営まれていることが窺える。

(委員長 増田 昇)



外周部や施設中庭となる回廊。いずれも非常に長い延長をもつ。



(上) 施設外観、(左下) 中庭に設けられたデッキ、(右) エントランス



サブエントランスのシンボルツリー。既存樹木を保存したもの。



大阪府知事賞

日野病院

所在地：堺市東区北野田

主用途：病院

建築主：特定・特別医療法人 頌徳会

設計：(株)吉村建築設計事務所・藍設計

建築施工：(株)竹中工務店

造園施工：(株)樋口造園・川端造園

■講 評■

日野病院は堺市にあり、敷地の前面には住宅地が広がり背面には田畑が多く残るのどかな環境の中にあります。評価の基準のひとつに敷地外部への緑の公開性があり、とりわけ道路に接した面積の緑量がポイントになりますが、この施設は接道延長が極端に短い敷地条件であるにもかかわらず、植栽スペースの配置や多様な植栽によって緑の奥行きと彩りが連続的に作られています。また、建物裏側やへた地など目立たない場所への緑化や、周辺の田畑の景観に配慮した緑化がされています。施設利用者に限られますが、屋上庭園や芝生園地、菜園などは利用者にとっても身近で心地よい雰囲気となっています。

こうした数値的な緑量を補う総合的な植栽技術と工夫、心配りが印象に残る施設です。

(副委員長 遠藤 尚美)



リハビリ施設も兼ねる施設屋上



(左) 建物裏側の駐車場緑化、(右) 菜園



施設棟中央部（吹抜け下）の中庭



院内保育園に併設する芝生遊戯場



接道部の彩りある植栽

ウェリス・ジオ千里佐竹台

■講 評■



傾斜を活用した施設内緑地

大阪府の基準に対する緑化面積割合が316.3%と非常に高い施設です。これは今回応募のあった27件中、新築物件としては最も大きな値でした。施設中庭部分は、居住者専用で外来者は入ることが出来ませんが、高低差のある地形を活かして、凝ったデザインの大きな緑地が作られています。また、オーナーズハウスの屋上緑化、来客用駐車場の駐車場緑化、建物への壁面緑化など、様々な空間で積極的に緑化が行われている点も高く評価され、今回の受賞となりました。

傾斜地造成によって発生した残土を中庭や接道部緑化に積極的に活用して、搬出土量を抑える工夫を行うなど、環境対策にも様々な配慮がなされており、今後の開発の見本となる事例と言えるでしょう。

(選考委員 山田 宏之)

所在地：吹田市佐竹台

主用途：集合住宅

建築主：エヌ・ティ・ティ都市開発 株式会社
阪急不動産 株式会社



(左) 施設外観、(右) 搬出土を抑えるために設けられた盛土植栽

【設 計】(株)NTTファシリティーズ 一級建築士事務所【建築施工】安藤建設(株)【造園施工】住友林業緑化(株)

■講 評■

グッドタイムリビング 香里ヶ丘

グッドタイムリビング香里ヶ丘は、1957年の大規模ニュータウンであった香里団地の老朽化などに対応するための再生事業の一環として誕生しました。枚方八景のひとつとして親しまれるけやき通りとの接道部分は建築物の後退によりアプローチが広くとられ、中央に配置された緑化地帯によりパブリック空間からプライベート空間への流れを作り上げています。また、1階2階のテラスにも緑化による間を取ることで、室内からの景観を開放的にするとともに、安堵感を抱くデザインとなっています。

日本ではネガティブな印象をもつ老後の時間を、グッドタイム『人生最良の時』とネーミングしたこの施設と同様、緑化にも活気がみられます。

四季の表情豊かなこの敷地を活かした連続性のある緑化により、住民の方々に潤いを与えている点が評価されました。

(選考委員 間宮 吉彦)



(左) 食堂(2階)からの景観、(右) 盛土緑化で目隠しされた接道側駐輪場



街路沿いのセットバック緑化

所在地：枚方市香里ヶ丘

主用途：有料老人ホーム

建築主：オリックス不動産 株式会社

【設 計】(株)内藤建築事務所・(株)内藤総合計画【建築施工】西松建設(株)関西支店【造園施工】西武造園(株)

ホソカワミクロン株式会社 本社ビル

講 評

住宅と工場が密集する地域の一面にあります。接する道路は交通量が多く、周辺環境は緑が少ない場所といえます。既存の接道部の緑地に厚みを増す形で、樹木や地被が植栽されており、緑化面積、公開性、視覚的緑量の高い施設です。

駐車場の中には芝生のマウンドの中にセンペルセコイヤの大木が植えられており、シンボルツリーとして存在感があります。また、駐輪場の壁のへた地やコンクリートの法面下のわずかな基盤にも適切な性植物が植えられており将来緑の駐輪場、駐車場になりそうです。オーソドックスな緑化ですが維持管理も良好で、将来より豊かになる期待の高い施設です。

(副委員長 遠藤 尚美)



駐輪場脇のすきま植栽



シンボルツリー (センペルセコイヤ)



(左) 施設外観、(右) 本社ビルからの景観

所在地：枚方市招提田近

主用途：工場

建築主：ホソカワミクロン 株式会社

【設計】(株)日建設計 【建築施工】(株)大林組 【造園施工】向内造園(株)

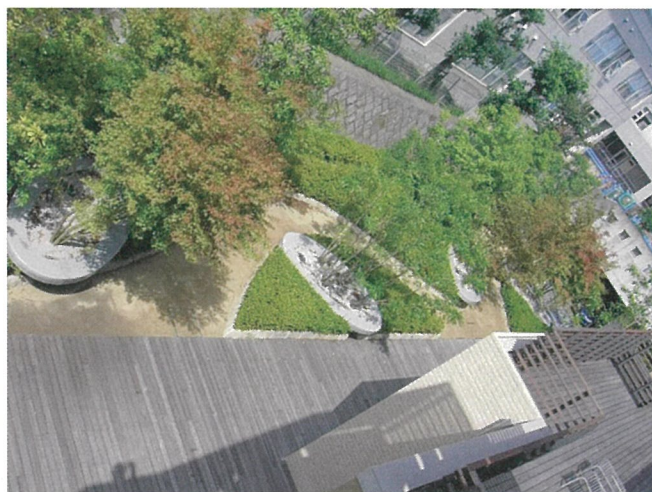
千里リハビリテーション病院

講 評

一見して緑量が多いことが目を引く病院です。緑化面積は、府条例で必要とされている面積のおよそ2倍を確保しており、地上部の緑化のうち、7割強が樹木によるものです。病院利用者に、すばらしい憩いを提供していることを想像させます。実際、竹庭から建物への渡り廊下を使って、平衡感覚を養いながら歩行訓練をしたり、中庭でセラピーをしながら談笑したりする人たちがいたそうです。

病院の性格上、庭園は一般に開放されていませんが、施設の外壁には、壁面緑化が施されています。緑の成長とともに、外にも美しい景観が見えてくるでしょう。隣接地でも同じ法人が2期工事を計画しており、地域への緑化効果が期待できそうです。

(選考委員 井上純子)



リハビリに活用されている施設内庭園

所在地：箕面市小野原西

主用途：病院

建築主：医療法人社団 和風会



(左) 施設外観、(右) 竹庭と渡り廊下

【設計】(株)共同建築設計事務所 【建築施工】(株)大林組 【造園施工】住友林業緑化(株)

選考委員会奨励賞

ザ・ヴァンデュールシティ



中庭の景観
写真奥の立体駐車場手前は、駐輪場の屋根を緑化したもの

所在地：寝屋川市黒原新町

主用途：集合住宅

建築主：大和システム株式会社
日精興産 株式会社
生和ホームズ 株式会社
株式会社 セイキョウホーム

講 評

緑化面積は大阪府基準の約1.2倍と、さほど大きな値ではありませんが、樹木率の高さ、接道部緑化のボリューム感、駐輪場の屋根緑化などが評価され、受賞となりました。

接道部分は、歩道を確保するために建物の大幅なセットバックを行って空間を確保し、その部分に並木状に高木を植栽することで、周辺地域の緑量感の増加にも貢献しています。また、中庭に面した集会場の屋上は全面緑化されており、すぐ隣の駐輪場の屋根緑化と併せて、上層階から見た際の、中庭の緑量を豊かに見せる工夫がなされています。駐輪場の屋根緑化は、こういった屋根空間の緑化専用と考えられた工法を採用しており、全国的に見ても、まだ施工事例が少なく興味深いものです。

(選考委員 山田 宏之)



(左) セットバックして設けた植栽と歩道、(右) エントランス

【設 計】(株)長谷工コーポレーション大阪エンジニアリング事業部 【建築施工】(株)長谷工コーポレーション 【造園施工】(株)植芳

講 評

高齢者総合福祉施設 四條畷荘

本施設は小学校のグラウンド跡地に建設された特別養護老人ホームであるが、既存の樹木を有効に利用した敷地内の遊歩道は、完成間もない施設にもかかわらず熟成した豊かな緑景観を醸し出しており、保存樹木の効果的な利用の好例となろう。新規の緑化も高木を中心になされており、樹木の成長によって全体的にボリュームのある緑景観が形成されることが期待できる。一方、屋上部や施設内部の吹き抜け空間には、フラワーベッドが各所に設けられ、入所者が自由に園芸を楽しむことができるような配慮もなされている。ボランティアと職員の方々だけによる管理と聞いているが、自由に手を掛けて楽しみながら良好に管理されている。

(委員長 増田 昇)



(左) 施設外観、(右上下) 施設中庭



既存の緑化を活かした遊歩道

所在地：四條畷市北出町

主用途：高齢者総合福祉施設

建築主：社会福祉法人 大阪府社会福祉事業団

【設 計】(株)設計事務所ゲンプラン 【建築施工】(株)鴻池組 大阪本店 【造園施工】(株)高石造園土木

選考委員会奨励賞

児童養護施設 あおぞら

講 評

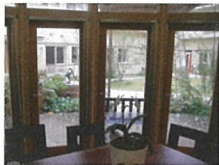
レンガ造りのポンプ場がある中庭のデザインが高く評価されました。室内からみた景観は、「カフェのよう」との声も。機能面でも多くの工夫がみられました。遊戯室西側のはめ殺し窓の外の軒下には、ゴーヤによる緑のカーテンが設置されています。室内の温度上昇を抑制し、内側からも美しくみえます。ほかに、屋上菜園、屋上緑化、太陽光発電なども。ここで暮らす子供たちは、緑に親しみ、環境にやさしい暮らし方を身につけることができると思います。

園の関係者によると、施設から学校に通っていることを友だちに知られたくないという子供もいたそうですが、緑がたくさんしゃれた建物になってからは、子供たちの多くが「自信をもってここに住んでいるといえるようになった」と話しているそうです。豊かで美しい緑が、人の心に必要であることを改めて認識させられました。

(選考委員 井上 純子)



多様な植物により緑化された施設中庭



(左) 室内からの景観、(中) 室内からみた緑のカーテン、(右) 地下水利用のポンプ

所在地：岸和田市三田町
主用途：児童福祉施設
建築主：社会福祉法人 阪南福祉事業会

【設 計】二井清治建築研究所 【建築施工】(株)矢野組工業 【造園施工】(株)泉州緑化

第1回 受賞施設

大阪府知事賞



森ノ宮医療大学

所在地：大阪市住之江区南港北
主用途：大学
建築主：学校法人森ノ宮医療学園



アルビス緑丘

所在地：池田市緑ヶ丘
主用途：賃貸住宅
建築主：独立行政法人
都市再生機構西日本支社



公益社 千里会館

所在地：吹田市桃山台
主用途：葬儀場
建築主：燦ホールディングス

選考委員会奨励賞



(左より) ザ・ライオンズ池田(池田市) ペプチド研究所 彩都研究所(茨木市) 辰巳環境開発(株) 東大阪食品リサイクルセンター(東大阪市) ピアニニ道教寺(貝塚市) デュオス北花田(堺市) いぶきの保育園(和泉市)

委員所感

井上委員

「おおさか優良緑化賞」は2年目を迎え、賞の知名度が着実に上がってきたと感じます。

全体的にみて、デザインの的に工夫されたものが増えました。義務付けられた緑量を満たすだけでなく、「ここに住んでみたい」「ここで働きたい」と感じさせる施設が多くなったのが印象的でした。

屋上緑化を施した施設が増え、谷間に位置する緑に光を届けるための特別な設備を配した施設などがあり、より高い緑化技術を導入した施設が見られました。病院、高齢者向け施設、児童養護施設などの応募が増えたこともうれしいことです。

施設を利用する人達が緑を見て安らぎを感じていることが想像できます。工場、消防署、リサイクル施設、遊技場、火葬場などからの応募があり、大阪のあらゆる施設で緑化に対する意識が高まってきたと感じます。ただ、こうした施設で「知事賞」「奨励賞」に入選したのは1施設だけ。緑化効果が資産価値に直接反映させられる集合住宅などと異なり、公共施設などではコストが高くつく緑化が理解されにくいことが理由だと思われます。それでも初年度に比べれば、応募施設の多様化が進んでおり、来年度以降に期待できそうです。

間宮委員

第二回となるおおさか優良緑化賞は前年を上回る多数の応募がありました。

ヒートアイランド現象の抑制等の都市環境の改善、都市魅力の向上を目的とした賞であるが、選考対象として1000㎡以上の敷地を有するという条件により、応募箇所は、都心よりも郊外や開発地区に多く見られた。

今、私たちの思う、“豊かな暮らし”に反し、バブル時期の開発事業では、目先の利便性を追い求め建築物を点でとらえてきた。

時代が流れ、点でとらえる時代は終結し、都市を創ることは、そこで暮らす人々の暮らしを豊かにし得る建築をプロデュースすることとなった。

都市は自然要素と人工要素が融合し空間に魅力享受する空間でもある。

ビルの屋上緑化や壁面緑化、今こうしている間にも様々な技術が開発され、有機的調和がなされている。

この賞が、人々を引きつける場を形成し、人々の暮らしに豊かさを与え、緑土を資源として将来につながっていくことを望みます。

遠藤委員

2回目となる今回は、昨年に比べて全体的なレベルが高くなりました。

まず緑量の点で基準の120 %以上の施設が全体の7割を占め、約半数の施設においては150 %以上の緑量が確保されています。この制度の成果が少しずつ大阪府のまちの緑の量に反映されつつあるといえます。

緑の質の点でも植物の選択や緑化手法に工夫をこらした施設が多くみられました。施設の緑が周辺環境にどの程度貢献しているかという公開性については、建物周辺の緑化に力を入れた施設も多く、景観との調和や社会的貢献の緑の意識が感じられました。建物内部や屋上・駐輪場緑化のモデルとなる事例もありますが、今日の社会状況を考慮するとセキュリティの面で住民や利用者に進入を限定されるのはいたしかたのないことで、緑の公開性に課題を残しました。また全体的に壁面緑化の事例が少なく普及にはまだ壁が厚いことが窺えます。

山田委員

今回は2回目ということもあって、初回の時のような、とりあえず緑化したから応募してみようか、といった安易な事例は少なかったように思います。そのような中でも、限られた面積、予算の中で工夫して良い物を作っていこうという意思が強く現れている施設が賞に選ばれました。

前回審査の際も、基準緑化面積の2倍を超える面積を緑化した事例があつて驚いたものですが、今年の審査対象の中には、新築物件で316.3 %、増築物件では実に548.2 %という凄いものまであり目には、緑化は社会のルールとして守るべき義務ではなく、積極的に事業に活用すべき有効なビジネスアイテムと映っているのではないのでしょうか。

このように積極的な姿勢を持つ事業者が増え、府の緑化基準が役割を終える日が来ることを期待しています。

おおさか優良緑化賞 応募用紙

平成 年 月 日

大阪府知事

あて

次の施設を「おおさか優良緑化賞」に応募します。

施 設	
施設名	
所在地	
施設種	
施設緑化完了日	
建築主（応募者）	
住 所	
氏 名	
連絡先	
連絡担当者	
社名／氏名	
電話番号	
e-mail	

当該施設の緑化について配慮した事項

緑化計画の作成に当たり 特に配慮したところ	☐ 緑量 ☐ いりどり ☐ 生態系保全 ☐ 景観向上 ☐ 防災 ☐ 利用者のふれあい ☐ 資源の循環利用 ☐ 敷地の有効利用 ☐ その他（ ）
緑化施設の配置について 特に意識したもの	☐ 外からの景観 ☐ 内からの景観 ☐ 庭園等としての利用 ☐ その他（ ）
屋上緑化の施設利用者へ の開放	☐ 常時開放 ☐ 時間指定で開放 備考（ ）
緑化の管理方法	☐ 業者委託等、計画的に管理している ☐ 特殊な設備を用いて管理している。 ☐ その他（ ）
その他 P R	

添付書類

1. 大阪府自然環境保全条例による届出関係図書
(緑化完了書、樹木一覧表、緑化完了平面図、求積図)
2. 現況写真
3. その他説明資料(施設緑化の取り組みに関する資料等)

※大阪府自然環境保全条例第34条の適用外の市域にあっては、各市条例の届出関係図書
図面については、可能な限りA3サイズでの提出をお願いします。
現況写真については、JPEG等の電子データで提出いただくことも可能です。



おおさか優良緑化賞

大阪府自然環境保全条例(以下「条例」)に基づいて緑化がなされたもののうち、府内の都市環境の改善に特に貢献する緑化や建築物敷地内の魅力向上に資する緑化、新たな緑化手法のモデルとなる優れた取組みを顕彰します。

応募資格

敷地面積1,000㎡を越える次の施設

- ・ 条例第33条による義務緑化を行ったもの
- ・ 条例第38条で指定する市町村において義務緑化を行ったもの

応募期間

義務緑化完了年度の翌年度8月末まで適宜

- ・ 毎年度3月末までに完了したものが翌年度の表彰対象です。

応募方法

応募は自薦です。応募用紙に必要事項を記入の上、関係書類(緑化完了書等)を添えてご提出ください。

- ・ 応募は大阪府の下記の機関、市町村担当課で受付しています。
- ・ 応募用紙、添付書類については、裏面をご参照ください。

環境農林水産部 みどり・都市環境室

北部農と緑の総合事務所、中部農と緑の総合事務所

南河内農と緑の総合事務所、泉州農と緑の総合事務所

緑化の規模だけでなく、景観、利用への配慮・工夫、緑化への意欲等、施設緑化に関わるさまざまな努力や取り組みについて、学識経験者等で構成する選考委員会で審査・評価され、受賞者が決定します。

ホームページでもご覧いただけます。

<http://www.pref.osaka.jp/midori/shizenjourei/index.html>



大阪府

環境農林水産部みどり・都市環境室

〒540-8570 大阪市中央区大手前2丁目

TEL 06 (6944) 9213 / ファックス 06 (6944) 6749

メールアドレス midorikankyo@sbox.pref.osaka.lg.jp

ホームページ <http://www.pref.osaka.jp/midori/index.html>

このパンフレットは5,000部作成し、1部あたりの単価は23円です。



平成21年2月発行